

# 空知家族会連合会報



サポートステーションステップでの作業

## 研修会・交流会報告

### 平成 23 年度「空知地区知的しょうがい福祉施設利用者家族会等連合会」研修会について

空知地区知的しょうがい福祉施設利用者家族会等連合会  
副会長 佐々木和男 (雪の聖母園家族会 会長)

当会の平成 23 年度研修会は、10 月 28 日(金)、北海道光生会のご協力を頂き開催しました。

当日は天気にも恵まれ、平日にもかかわらず 26 名が参加し、社会福祉法人北海道光生会南美唄福祉工場と同じ法人のしょうがい福祉サービス多機能型事業所サポートステーション・ステップの 2 事業所を、それぞれ、支援課長石川修二様、マネージャーサービス管理責任者安藝英俊様のご案内で見学させて頂きました。

#### 【南美唄福祉工場】

昭和 38 年、北海道産炭地誘致企業第一号として(株)泉製作所北海道南美唄工場が設立され、昭和 51 年全国重度しょうがい者多数雇用モデル工場に指定されました。平成 8 年(株)泉製作所を社会福祉法人光生会が吸収し、札幌・函館に続いて道内 3 番目の知的しょうがい者福祉工場として開設しました。そして、南美唄福祉工場は平成 22 年 4 月より就労継続支援事業 (A 型) 事業所

として再スタートしています。

しょうがい者が地域の中で働き、暮らすという事を実現し、その安定継続には経済的、職業的自立が大きな柱となりますが、そのことにおける美唄市での中核となっています。

南美唄福祉工場では、家庭用・業務用・JR タワーホテル日航札幌・札幌後楽園ホテル等のホテル用ベッドマットの製造販売、介護用ベッド、JR 車両用シートの製造等をおこなっており、ハイクオリティな製造開発としょうがい者就労支援に全力で取り組んでいました。

従業員数は、しょうがい者 21 名、健常者 10 名、法人職員 5 名。営業は旭川 2 名・札幌 2 名。経理は、企業会計と福祉会計の両建てで、また、従業員との契約も雇用契約と利用者契約の二通りを結んでいるとの説明でした。利用者の平均賃金は 133,000 円です。



南美唄福祉工場を説明される石川支援課長

#### 【サポートステーション・ステップ】

平成 13 年に通所授産施設として開設し、平成 21 年 4 月より障がい者自立支援法に基づく しょうがい福祉サービス事業者として再スタートしました。現在の事業形態は就労移行支援事業定員 20 名と就労継続事業 (B 型) 定員 20 名の 2 つの事業を行う多機能型となっており、就労支援では企業での一般就労を目指す方の作業訓練や就労実習を行い、就労継続事業 (B 型) では就労や生産活動の機会を提供するとともに、一般就労に向けた支援にも取り組んでいました。具体的な活動内容としては、市内 5 施設の清掃作業をはじめ、事業所内で行う企業からの下請け作業とオリジナル商品 (ノンスリップ敷きマット・低反発ウレタンクッション・食食用介護エプロン・エコバック等) の製作を行って

おり、全道各関係団体・施設等の協力を得ながら各種行事や催し物を通して販売を行っていました。

サポートステーション・ステップは、利用される方たちが地域の中で「あたりまえの生活」を送る事をお手伝いするため、一人ひとりの個性を大切にし、一人ひとりに合ったサービス、働く場と生産の場を提供する事で生きがいや自信、仲間とのコミュニケーションの大切さを伝える事が出来るような支援を行っているとの説明を受けました。

利用者は、障がい程度区分 2～3、在宅 20 名、グループホーム 29 名。工賃は平均 33,000 円で、最低時給は 250 円でした。

見学を終えた後「美唄市総合福祉センター」で、昼食・交流会を行いました。

(page 2 に続く)

【挨拶】 本会会長 石田貞夫

先程の見学では、落ち着いて集中し熟練した職人技を見学させて頂きました。

家族会連合会で、自立支援法の良くないところは変えて行かなければならないと活動しております。

自立支援法は政権が変わった時に廃止という事になり、現在、総合福祉法の審議に入っていますが、知的しょうがい者の福祉には程遠い印象を持っています。その為、全国組織の全施連では政治的な活動を続けており、その内容は道連合会の会報やホームページ (<http://do-ren.ciao.jp/>) に載ってますので、是非、ご覧下さい。

来年、国会に法案が出るまでに家族の要望が通るよう、皆様のご協力を頂いてより良い方向に進めて行きたいと思っています。

【来賓挨拶】 北海道光生会理事長 / 美唄市社会福祉協議会会長 高橋 将 様

明日、障がい者総合福祉法について、帯広の障がい者総合相談支援センター理事長の門屋さんに来て頂き研修会を開きます。社会福祉協議会の役員だけでなく、父兄の方にもたくさん来て頂き、利用者さんのためになるような法律改正にする為に頑張っていると思っています。

見学された福祉工場ですが、三井美唄炭鉱が閉山になった時の産炭地誘致企業で第一号の工場で、50人ぐらい施設から働きに行っていたのですが、それが思わしくなくなり会社が無くなったら失業してしまうので、北海道光生会が何とかしなければ成らないと現在の福祉工場を立ち上げました。最初は本当に辛い思いもしましたが、頑張ってきてきました。現在も決して楽な運営をしていません。食べ物と違いベッドは一度買ったなら何十年も使用します。そんな苦しい状況ですが、職員・利用者さんが一丸となって頑張ってきています。そんな彼らは、立派なベッドを作っているという誇りを持って毎日やっています。札幌駅の JR タワーホテルの第一号のお客はそのホテルのベッドを作った利用者さんです。宿泊はオーナーのご厚意で第1号で宿泊させて頂きました。

その後、見学をしたステップは、市に何度も援助をお願いし、ご父兄の力もお借りして立ち上げました。ステップで働いている大半の人は、仕事で社会に出て働くという経験が無かったのですが、今では胸を張って毎日通っております。これから先、このような形態のものが沢山出来ると思います、その為にも親と職員と利用者さん達があっさりスクラムを組んで行かなければならないと思います。

【来賓挨拶】 空知知的しょうがい福祉協会会長 上坂隆一 様

10月8日(土)に、砂川子供の国で19の事業所が、生産している物を販売をし、大成功に終り新聞にも掲載されました。来年もやろうと意気込でおります。

我々事業者と家族の皆さんが車の両輪になり、しょうがいのある人達をしっかりと支えていくことを今日の研修会で確認をしたいと思っています。

【食事後の懇談会】

○北海道知的しょうがい福祉協会では、付添いさんが付いたり家族が付添った場合、費用が出る互助会制度をやっているのですが、国の財団法人の見直しにより、その事業が来年度からできなくなりました。入院互助制度を肩代わりする入院したら付添い費用も支払ってくれる保険を保険会社に依頼しております。保険会社としても加入者数がどれぐらいになるか、設定保険金額を幾らにするか等不明な点が多く二の足を踏んでいるように見受けられます。

○AIUから生活サポート保険が出てます。それは、怪我で入院した時のみ入院付添いの費用が出ます。病気で入院は出ません。また、生活サポートは個人加入で団体で加入している方は切替えずにはなりません。

○美唄光生園家族会では、全員AIUに加入し入院付添いの費用が出るようにしています。しょうがい者が入院した場合、医師との意思疎通の問題で付添いが必要になります。光生園家族会では一つの事業として入院付添いの基金を積立て、その中から拠出していたのですが、その後、協会の保険に加入しましたが、それができなくなり、AIUに加入しました。

○しょうがいを持った方が入院した場合、職員は手が回らない、保護者は、仕事の関係で付添いが出来ないという事になり、付添いの費用負担軽減の為に保険が必要になります。道福祉協会としても何とか今の制度に近い保険、どんな入院でも専門の付添いさんや家族の付添いに費用が出るような保険を続けていかなければ大変な事に成ると思っています。

【閉会挨拶】 本会副会長井馬和男

23年度の当家族会連合会の研修会及び交流会にご参加頂き有難うございました。福祉協会の上坂会長には現状をお話頂き、また、午前中には南美唄福祉工場、サポートステーション・ステップでは見学及びご説明を頂き、感謝申し上げます。自信を持って作業をしている姿を見て素晴らしいと思いました。これからは、しょうがい者にも一定の収入が保障されなければ成らないと思います。企業と変わらない考え方でやっている所を見学し、有意義な勉強させて頂きました。